

標準委員会 システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会
第 48 回統合的安全性向上分科会議事録

1. 日 時 2024 年 11 月 14 日 (木) 9:00～12:10

2. 場 所 WebEX による Web 会議

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 村上主査 (東大), 中島 (松本副主査代理 ; MRI), 倉本幹事 (NEL),
鈴木委員 (原安進), 竹中委員 (MHI NS エンジ), 田邊委員 (東電 HD),
中村委員 (原電), 古田委員 (関電), 廣川委員 (日立 GE), 山田委員 (中部電)
(10 名)

(常時参加者) 安達 (NRA ; 候補), 岩田・山川 (関電), 岩谷 (電中研), 浦野 (原電),
大家・岸根 (NEL), 久保 (MHI), 小西 (九州電), 高嶋 (北陸電),
高橋 (東電 HD), 武内 (四国電), 沼田 (関電 ; 候補), 幅・藤井 (電源開発),
山川 (関電), 安井 (北海道電) (17 名)

(傍聴者) 神田 (中国電), 下白石 (九州電) (2 名)

4. 配布資料

S3SC48-1 第 47 回統合的安全性向上分科会議事録 (案)

S3SC48-2 人事について

S3SC48-3-1 IRIDM 標準の改定方針・検討ポイントとその対応方針

S3SC48-3-2 ISO31000 と照らした IRIDM 標準の構成変更検討

S3SC48-3-3 IRIDM 標準改定案 (本体) 2024/11/14 版

S3SC48-3-4 IRIDM 標準改定案 (附属書 (参考)・解説の構成・内容案)

S3SC48-4 “原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する実施基準:2023”
標準講習会 実施内容 (案)

S3SC48-5 システム安全専門部会 標準策定 5 か年計画 (2025 年度版)【統合的安全性
向上分科会関連分】(案)

S3SC48-6 2024 年度標準委員会倫理教育受講状況フォロー表

S3SC48-7 統合的安全性向上分科会検討スケジュール

参考資料 :

S3SC48-参考 1 統合的安全性向上分科会名簿

5. 議事内容

(1) 出席者確認

倉本幹事より、議事に先立ち、開始時点で委員 15 名中 10 名（代理出席を含む）が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(2) 資料確認

議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

(3) 前回議事録確認（S3SC48-1）

倉本幹事より、資料 S3SC48-1 を用いて、第 47 回分科会議事録（案）の確認を行い、特に異議なく、確定議事録とすることが承認された。

(4) 人事について（S3SC48-2）

倉本幹事より、資料 S3SC48-2 を用いて、以下に示すと通りの常時参加者の登録解除及び登録が報告され、常時参加者登録につき異議なく承認された。

- ・常時参加者の登録解除【報告事項】
 - 近田 啓 （関西電力）
 - 伊藤 信哉 （原子力規制庁）
- ・常時参加者の登録【承認事項】
 - 沼田 健 （関西電力）
 - 安達 泰之 （原子力規制庁）

(5) IRIDM 標準改定 改定案の議論（S3SC48-3-1～3-4）

倉本幹事より、資料 S3SC48-3-1～3-4 を用いて IRIDM 標準改定に関する説明がなされた。

主な議論は以下の通り。

<標準タイトル及び“1 章 適用範囲”に関する議論>

- 標準タイトルについて、より包括性を示すために“継続的な安全性向上”を除いた。
- C：継続的な安全性向上は事業者が常に意識している言葉であり、この言葉により包括性が損なわれるものではないとも考える。このため削除しなくてもよいと考える。
- C：リスク情報活用の OLM での例のように、運転中の待機除外により一時的なリスク増加があり、且つメンテナンスを定検中の繁忙な時期に実施するよりもトータルで

はリスクは下がるというようなケースに対しての意思決定も含むものと思う。意思決定にもいろいろなタイプのものが考えられるのに対し、タイトルに継続的安全性向上とあると、常に安全性向上を目指すことを含む意思決定を対象としているとの印象を与えかねず、削除する方がよいと考える。

C：適用範囲において“発電用軽水炉の構成員”という言葉が使われているが、本標準の使用者はメーカーや規制でもある。現状の記載だと事業者のみが用いる印象を与えるため、構成員という言葉は、他の言葉に置き換えることがよい。

C：“発電用軽水型原子炉施設”を適用範囲としていることについては、確率論的考慮事項の指標として CDF, CFF などの判断基準を本体規定に示している。解説において、それ以外の施設においても判断基準を適切に設定することで、この標準を使えるとしている。

Q：適用範囲の注記記載について“問題に対する意思決定を行う”とあるが、“問題”ではなく“課題”などの言葉のほうが適切ではないかと考えるがいかがか。

A：現行標準では“7.2 節 問題の設定”とあるように、INSAG-25 での Issue という用語を“問題”という用語を使って全体的に説明している。現行標準においても審議をした内容であるが、改定にあたって、標準全体での記載見直しを論点に加え、今後議論をしていくようにする。

<IRIDM プロセスの見直しに関する議論>

IRIDM プロセスにつき、情報収集タスクと問題解決タスクを分割し、さらに 6.4.4 にて統合的な分析の実施程度の判断分岐を設けるような変更を実施した。

C：“問題の設定”の後に“選択肢の選定”がなされる構成となっている。“問題の設定”と“選択肢の選定”は反復的に実施され問題と選択肢は同時に決まるものではないかと考える。このため、この節は統合したステップとすることがよいのではとも考える。

A：現行標準においても同様の審議があったうえで、ステップを分割することにした。問題の設定と選択肢の選定を一つに統合すると、選択肢の実行可能性に左右され問題を設定してしまう可能性がある。今回の改定にあたって、あらためて論点とすることで、今後議論をしていくようにする。

<ISO31000 に従った章構成見直しに関する議論>

既存のリスクマネジメントシステムとの包含関係を明確化するため、IRIDM 標準の層構成をリスクマネジメント規格である ISO31000 にしたがう形へ見直した。

C：枠組みという言葉に馴染みがない。現行標準の実施体制及び環境整備という言葉のほうが馴染みある。

C：現行標準では、枠組みをプロセスの全体像といった意味合いで用いており、ISO31000 における枠組みの定義とは異なるものとなっている。これを受け今回 ISO31000 の枠

組みという定義に合わせる形で、改定案の構成を検討した。

C：QMS，リスクマネジメントシステム及び IRIDM の関係性について，それぞれの実施組織での要件を包括して満たす形にはなるものと想定されるが，その具体的な関係性は各組織で異なるものと思う。このため，標準において具体的な包含関係は明確にしないほうが良いと考える。

A：附属書，解説での説明において，ISO31000 に準拠したという記載ではなく，ISO31000 との対応関係を確認したという記載とする。

<用語の定義に関する議論>

C：キーエレメントの定義に関し，現行標準では，最終的な判断に用いる際に活用する指標・基準と，それらを選定する際に大枠と INSAG-27 で示される指標の両方が混合されて用いられている。

改定標準においては，前者をキーエレメントと定義すると明確にして説明することとしていく。説明上で，不都合などがあれば，改めて検討したいと考える。

Q：ステークホルダーの定義を現行標準から変更しているが，何かに基づいているのか？

A：ISO31000 の定義を用いている。

標準改定の今後の進め方につき，今回分科会にて提示・審議した改定方針及びその対応案に関して，分科会委員・常時参加者からの確認，コメントをもらう，並びに改定に対する追加論点，及び改定が必要な箇所・事項の抽出を挙げてもらう形で検討をしていくことが説明された。IRIDM 検討チームでの対応分担に従う分担箇所を中心に検討を進めることとし，その作業ファイルなどについては，倉本幹事から送付、共有を行うことが説明された。

(6) PSR⁺標準改定版発行に伴う講習会の計画 (S3SC48-4)

倉本幹事より，資料 S3SC48-4 を用いて，PSR⁺標準講習会について，講習会のセッション題目および講師分担について紹介がなされた。

講習会は1月中旬を予定している。

(7) システム安全専門部会 標準策定 5 か年計画 (2025 年度版)【統合的安全性向上分科会 関連分】(S3SC48-5)

倉本幹事より，資料 S3SC48-5 を用いて，標準策定 5 か年計画について，IRIDM 標準，PSR⁺標準の改定時期及び講習会の実施予定について説明がなされた。

Q：PSR⁺技術レポートは，廃刊をする必要はないか？

A：標準改定がなされており，技術レポートの内容も取り込まれているため廃刊していくことで問題ないと思う。5 か年計画において，廃刊の要否を検討するよう記載し，専門部会に提案する。

(8) 2024 年度標準委員会倫理教育受講結果（統合的安全性向上分科会）（S3SC48-6）

倉本幹事より，資料 S3SC48-6 を用いて，倫理教育の受講履歴や得られた感想・コメントについて紹介がなされた。

(9) 今後の予定（S3SC48-7）

倉本幹事より，資料 S3SC48-7 を用いて，次回分科会のスケジュールについて説明がなされた。

次回分科会は1月中旬を目途に実施予定。

以 上